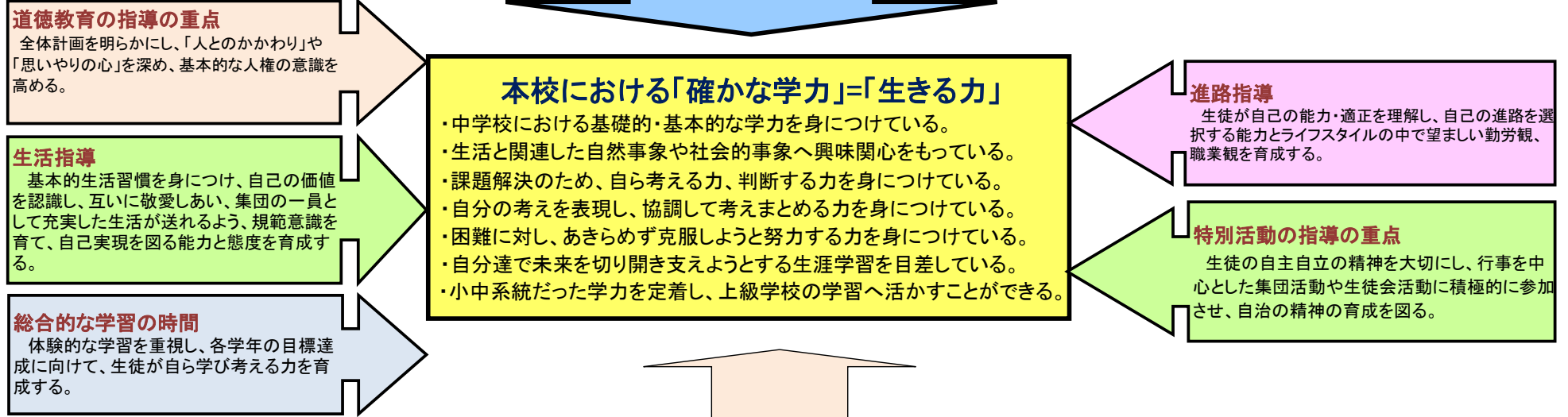
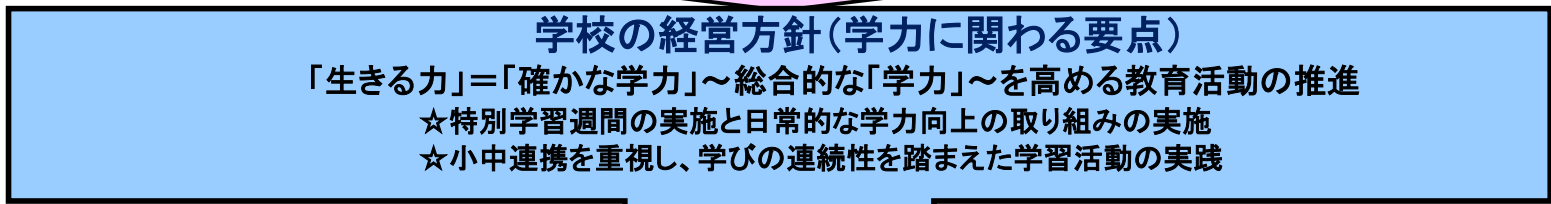
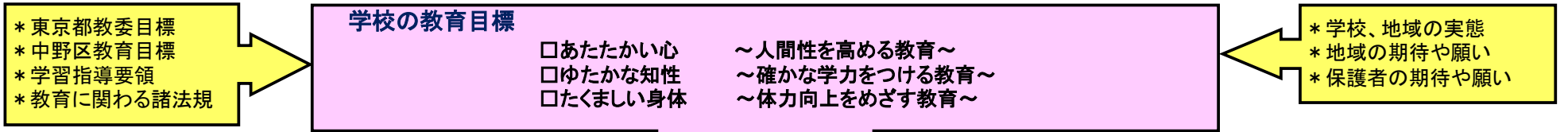


学力向上に向けた全体計画



本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	評価・評定の工夫	校内研究・研修の工夫	家庭・地域社会との連携の工夫
習熟度別少人数授業(数学・英語) ティームティーチング授業(理科) 特別学習期間の取り組み 年間を通じた補充学習 学力向上アシスタント、学習ボランティア等の人材を活用した日常的な学力向上の取り組みの実施	2学期制における教育課程の工夫(行事・体験学習等) 教育計画の作成 朝学習の実施 特別学習週間の実施	単元毎の観点別学習状況の 評価の提示 通知表の工夫・評価標準の見直し 「行動の記録」の評価標準の作成 進路対策の充実	生徒理解に関する研修の充実 防災体制・災害時対応の体制に関する研修の充実 ICT機器活用や授業向上に関する研究・研修の充実 学習指導要領改訂の趣旨を生かす研究・研修の充実 中野区教育委員会 学校教育向上事業に関する研修の充実	保幼小中連携・中高連携による教育活動 PTA「ホームページ運営委員会」などの連携強化 PTAとの連携・地域教育懇談会を中心とした地域活動への参画

授業改善推進プラン

国語	数学	英語	社会	理科	音楽	保健体育	美術	技術家庭
①学習への意欲関心を高めるための教材の工夫とICTを利用した教授法の工夫。 ②図書館指導員と連携して、読書指導を充実させる。 ③言語活動を生かすための他の領域との関連を図った指導をする。 ④重点を押し入れられるような工夫を施した板書方法を取り入れる。 ⑤内容理解を容易にさせるためのワークシートの効果的な活用をする。 ⑥漢字練習や小テストによる漢字の反復学習をする。 ⑦言語についての知識・理解・技能の徹底を図る。(常用漢字・慣用句・ことわざ等) ⑧辞書の効果的活用を図る。 ⑨豊かな語彙、適切な表現力を生かした「書くこと」の学習と推敲指導をする。 ⑩班活動、発表の機会を増やし、話す力、聞く力を育てる。	①基礎となる計算力を育成する。 ②興味・関心を高める教材開発をする。 ③主体的・対話的で密度の充実した指導の方法を工夫し特に「繰り返し」を中心とした「問題解決」の方法を実施する。 ④個に応じた習熟度別少人数指導の研究推進校として、工夫改善の充実を図る。 ⑤単元テストの実施及び自己評価を実施し、その活用を指導する。 ⑥補習を充実させる。 ⑦ICT機器を積極的に活用し学習効果を高める。 ⑧デジタル教科書を導入し学習効果を高める。 ⑨数学的活動を生かした授業を工夫する。	①基本的な学習姿勢を確立させる。 ②基礎基本の定着を図る。 ③関心意欲を高められるような教材の工夫をする。 ④コミュニケーション活動の充実を図る。 ⑤自己表現活動の工夫をする。 ⑥音読指導の充実を図る。 ⑦一人一人の生徒が自主的に参加できる授業づくりをする。 ⑧自己評価カード等を用いて個人課題を明確にする。 ⑨補習等、個に応じたきめ細かな指導を充実させる。 ⑩生徒が自分の力で読んだり、書いたりしようとする力を伸ばす指導を心掛ける。	①教材の工夫による関心意欲の向上を図る。ワークシートの使用による基礎基本の充実を心がける。ICTを使用することで関心意欲を喚起する。 ②単元ごとの課題を提示し問題解決的な手法を用いることで、思考力・判断力の向上を図る。また、資料やグラフなどを活用し、それらを読み取り考察する力をつける。 ③各単元の到達目標を観点別に明示することで、学習意欲を喚起させ基礎学力の充実を図り概念や技能の習得に努める。 ④地理・歴史・公民各分野と時間配分を工夫し効率よく学習できるようにする。 ⑤各授業ごとに目標を提示し、それに応じた指導を行うことで、各観点に対する意識を高め、また、単元別評価を充実させ、授業到達度を測るとともに、授業改善に役立てる。 ⑥レポート、新聞づくりなどによって技能表現能力の向上を図り言語活動の充実を図る。	①一人一人の生徒が自主的に参加できる授業の充実を図る。 ②実験観察を取り入れた授業を工夫し実施する。 ③実験観察の基本的操作や見方・考え方・まとめ方について、より丁寧な指導を行う。 ④問題演習等を行い、基礎基本の定着を図る。 ⑤定期考査や休業中の補習授業の実施する。 ⑥「考える力」や「表現力」を育成するため、計画的に思考力を促す発問の工夫や、実験レポートなどをまとめさせたり、討議させたり、発表させたりする。	①基礎基本を「歌唱」「器楽」「鑑賞」「創作」の各々の分野で徹底指導する。 ②授業の中で「歌唱」「鑑賞」両方の単元を盛り込むなど、少ない時間数でも充実した学習ができるように工夫する。 ③リコーダーアンサンブルなどの演奏形態を取り入れて器楽の興味・関心を高める。 ④生徒が興味・関心を高める題材を厳選して鑑賞への意欲を高める。	①年間を通して準備運動でストレッチ、ランニング、三種補強運動と、各種目合った運動を実施する。 ②自身の課題、成果が把握でき、意欲的に取り組める学習カードの作成をする。 ③チーム型スポーツを通して、コミュニケーション能力やスポーツリーダーの育成をする。 ④区の体力向上プログラムにのっとり、授業内での向上はもとより、他教科と連携して、食育・生活習慣病・口腔指導など、幅広く指導する。	①作品コメントの記入、鑑賞を通して、感じた事を相互に説明しあうことで、言語活動の充実をはかり、表現活動につなげる。 ②幅の広い題材を通して、基礎的な用具・材料、刃物等の扱い方、保管、安全指導を徹底する。制作の過程や作品を構成する要素、技法の知識や理解の面からも評価をする。 ③ICT機器、図書資料の活用や他学年の作品を参考にすることで、一人一人の思考と表現の幅を広げさせる。 ④協力して創造する喜びを味わうことができる教材の研究や工夫をする。 ⑤普段の生活や身のまわりの事物から、生徒が主体的に課題探し、創意工夫できるように、アイデアスケッチを習慣化させる。	技術科 ①「材料加工」領域で、工具や機械の安全に配慮した使い方を繰り返し指導し、生徒の意欲を高め、設計図の書き方を丁寧に指導する。 ②デジタルカメラを使用し、1学年は木製品のまとめ、2学年は「ダイコン栽培のレポート」を作成し、ICT機器を段階的に活用する。 ③ICTなどを活用する。 家庭科 ④調理実習や小物製作などを通して手先を使う経験を増やす。 ⑤授業中の質問を増やしより関心を高め、切り方の練習を丁寧に指導し、技能を定着させる。

中野区「学力に関わる調査」の結果(五教科)の分析および現状と他教科の現状

国語	数学	英語	社会	理科	音楽	保健体育	美術	技術家庭
①「関心・意欲・態度」の観点については、他の値を上回る結果が見られ、1学年において課題が残る。 ②「書く」の観点については、概ね良好である。 ③「読む」の観点については、概ね良好である。2学年において説明的文章の読み取りを強化する。 ④「言語についての知識・理解・技能」の観点については、1、2学年において課題が残る。 ⑤「話す・聞く」の観点については1年において、話の内容を聞き取る力が不足している。	①「数学的な見方・考え方」の観点については、大きな伸びで区平均を更に上回り、工夫改善の結果が表れた。 ②「数学的な技能」の観点については、基礎・基本の定着に課題が残る。 ③「数量、図形など」についての知識・理解の観点については、概ね理解できている生徒が多いが、個別の課題が残り、全体の底上げが必要である。 ④「関心意欲態度」の観点については偏りがあるが、概ね上回る結果がみられ良好である。	①リスニングに関しては第2、3学年ともに良好でALTの活用と常活動としてのリスニング指導が効果をあげていると思われる。 ②語彙の知識・理解、語法・語形等が弱い。ドリル等での繰り返し指導が必要と感ずる。 ③「文法・表現・英作文」においては理解度が二極化し、到達度の差が見受けられる。 ④語彙、文法への不安が大きく初めからあきらめてしまう生徒がいる。	①1、3学年においては、区の平均正答率をほぼ全領域において上回る結果ができた。しかし、2学年においては上回る結果がなかった。 ②1、3学年においては、基礎・基本の定着率は高いが、活用がまだ不十分なので、応用力を身に付ける対策が必要である。また、2学年においては、歴史的分野の基礎・基本の充実が必要である。 ③全体に、基礎・基本の一層の充実と、課題解決型の学習の導入や資料の読み取りや思考力を伸ばす学習の工夫・改善が必要である。	①どの学年でも各観点において、基礎的・活用的な到達は、おおむね良好であるが、理解が遅れている生徒や解答力の低い生徒もいるので、全体として正答率が上がる授業の展開を工夫する必要がある。それには、単元ごと的小テストや、ワークなどを必ず入れるようにする。 ②実験・観察に関する問題や課題等には、十分な正答率が見られ、このまま実験・観察の授業を重視し継続していく。 ③グループ討議や教え合い学習を通して、理解が遅い生徒もともに向上していく学び合いを重ね、効果を上げる。	①合唱コンクールに向けて合唱活動に積極的である。(特に3年生は、自主的に練習をを工夫し、高いレベルでの話し合い活動を取り入れている。) ②器楽、鑑賞の時間は少ないため、興味・関心も合唱と比較すると希薄である。 ③実験・観察に関する問題や課題等には、十分な正答率が見られ、このまま実験・観察の授業を重視し継続していく。 ④グループ討議や教え合い学習を通して、理解が遅い生徒もともに向上していく学び合いを重ね、効果を上げる。	①新体力テストの結果、全体的に全ての種目で下回り、体力の低下がみられる。 ②自己の課題を把握して授業に取り組む姿勢が身につけていない生徒がいる。 ③集団スポーツにおいてリーダーになる生徒が少ない。 ④運動が不得意で苦手意識を持っている生徒がいる。	①1学年は美術館、博物館等の施設を活用し、鑑賞した経験のない生徒が多い。美術文化に関する鑑賞は、言葉で語ったり記述することが苦手な生徒もいる。映像を使った鑑賞は関心が高い。 ②各小中学校の図工で取り組む内容の違いから、材料・用具の経験の有無や取り扱いの仕方、苦手意識などにばらつきがある。 ③学習発表会、作品展に向けての制作は各学年とも積極的である。3学年は自分にあつた表現形式や道具を選ぶことができる。また、図書資料の活用から、幅の広い作品の発想・構想を練ることができる。 ④共同の創作活動の経験が少ない。 ⑤目標と喜びをもって、こだわりのある作品制作において自己実現できる生徒が多いが、制作時間が不足し、補習や家庭で制作することも多い。	技術科 ①基本的な工具、機械の使い方に不慣れな生徒が多い。 ②目的に応じて作品を設計する経験が少ない。 ③パソコンの操作に不慣れな生徒もいる。 家庭科 ①作業経験が少なくなっているため包丁や縫い針など使い方のぎこちなさが見られる。 ②家庭内のことや社会に対する様々な経験が少ない。 ③授業に関心の低い生徒へのさらなる内容の工夫が必要である。 ④技能に個人差が大きい。